**第４章　大阪の商業**

グローバル化・ＩＴ化の進展、新たな業態の台頭によって、卸売業や小売業を取り巻く環境は大きく変化し、卸売業、小売業とも事業所数は減少傾向が続いています（４－１、４参照）。ただし、平成28年は24年と比較すると、景気の回復や外国からの旅行者による消費が好調なこと等を反映して、卸売業、小売業ともに年間商品販売額は増加しています（４－２、５参照）。

大阪府の年間商品販売額の割合が全国と比べて高いことを業種構成の中での特徴とすれば、卸売業では「繊維品卸売業」や「衣服卸売業」、「化学製品」（４－３参照）、また小売業では百貨店や総合スーパーが含まれる「各種商品小売業」が特徴としてあげられます（４－６参照）。

大阪の卸売業の発展と集積

大阪は、商人の街として発展し、日本全国の商業・流通の中心地として繁栄してきました。これは、淀川・大和川や大阪市内に張り巡らされた堀があり、取引が活発であったことによるものです。江戸時代には、各藩からの年貢米（蔵米）や、大豆・塩・紙等の特産物（蔵物）が大阪中之島・堂島周辺に設けられた諸藩の蔵屋敷に運び込まれ、売り捌かれました。また、大阪は河内木綿等の商業的農業、手工業生産が盛んであり、木綿、菜種油などが問屋によって全国に販売されました。

江戸時代以来の木綿問屋は、明治以降呉服、洋反、服地問屋を加え集散地問屋として船場を中心に問屋街を形成しました。綿花の輸入と綿糸・綿布輸出を行なう繊維商社も大阪で発展しました。繊維商社は、戦後、機械金属製品、化学製品などの取り扱いを伸ばしたり、専門商社を合併したりして総合商社化しました。ただし、総合商社は、取引の中心を大阪から東京へとシフトさせていき、大阪府の各種商品卸売業の全国シェアは1960年代の終わりから急速に低下しました。

江戸時代には、道修町を中心に伏見町、平野町、淡路町には、医薬品、医療用品、化学製品、化粧品などを取り扱う薬種問屋が集積しました。卸売業者の中には、大手製薬会社として発展し、現在も本社を構える企業もみられます。

立売堀・本町には、江戸時代から金物の問屋街が形成されていましたが、取扱品目が増え、現在は鉄鋼や機械器具・工具など機械金属全般にわたって取り扱われています。

資料：池田潔・加藤司・北出芳久（1997）『大阪卸売業の挑戦』社団法人大阪卸商連盟

大阪府立商工経済研究所（1980）『大阪の経済構造とその変貌』法律文化社

**４－１．卸売業の事業所数・従業者数の推移**

|  |
| --- |
| 府内の卸売業の数は、平成28年では３万6,071事業所あり、44万9,573人が働いています。これらの数は、26年に比べて事業所数は減少しましたが、従業者数は増加しました。 |

**卸売業の事業所数・従業者数**



**４－２．卸売業の年間商品販売額の推移**

|  |
| --- |
| 府内の卸売業の年間商品販売額は、平成28年に49兆7,082億円、全国シェアは11.4％でした。一方、東京都は、179兆1,125億円、シェアは41.0％と、他の府県に大きく水をあけています。 |

**卸売業の年間商品販売額及び対全国シェアの推移**



**４－３．卸売業の産業小分類別年間商品販売額・特化係数【平成28年】**

|  |
| --- |
| 卸売業の年間商品販売額の特化係数をみると、大阪府は「繊維品」、「衣服」が高く、「化学製品」も高い値になっています  一方、東京都は、総合商社や貿易商社などが属する「各種商品」、愛知県では「自動車」、福岡県では「家具・建具・じゅう器類等」の特化係数が高いことが特徴としてみられます。 |

**卸売業の産業小分類別年間商品販売額（平成28年）**



**卸売業の年間商品販売額の特化係数（平成28年）**



**４－４．小売業の事業所数・従業者数の推移**

|  |
| --- |
| 府内に立地する小売業の事業所数の減少は続いており、平成28年では63,526事業所となりました。また、従業者数は、53万5,347人でした。全国シェアは、事業所数が6.4％、従業者数が7.0％となっています。 |

**小売業の事業所数・従業者数の推移**



**４－５．小売業の年間商品販売額の推移**

|  |
| --- |
| 府内小売業の28年の年間商品販売額は10兆3,252億円で、全国シェアは7.1％でした。都道府県の中で年間商品販売額が最も多いのは東京都で、大阪府の1.6倍の人口に対して、販売額は２倍もあります。 |

**小売業の年間商品販売額及び対全国シェアの推移**



**４－６．小売業の業種別年間商品販売額【平成28年】**

|  |
| --- |
| 小売業の年間商品販売額の業種別構成比から、大阪府内では、百貨店や総合スーパーが含まれる「各種商品小売業」の割合が、全国や他の都県と比べて高いことが特徴としてみられます。 |

**小売業の産業中分類別年間商品販売額（平成28年）**

**４－７．小売業の業態別年間商品販売額【平成26年】**

|  |
| --- |
| 小売業の年間商品販売額について、業態別にみると、いずれの都府県においても「専門店」の構成比が高くなっています。特化係数でみると、大阪府は、全業態が満べんなく、全国平均並みに分布していることがわかります。 |

**小売業の業態別年間商品販売額（平成26年）**



**小売業の年間商品販売額の業態別特化係数（平成26年）**



**（参考）大阪府の業態別小売業の店舗数・従業者数・年間販売額**

